

# 隨泉寺寺報

平成16年(2004年) 12月号 第412号

TEL 082-892-0217 <http://tetunari@msl.megaegg.ne.jp>

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺  
報恩講法座

講師 円光寺住職 安部 敏孝師

講題 「有ること難し」

時うつり 月日つもれる 程なさよ  
花みし庭に ふれる白雪(玉葉957)

【通釈】時が移り、月日が積み重なることの、なんという早さだろう。

つい先頃花を見た庭に、いま降り積もる白雪。

年毎に月日のたつのが早いような気がします。まさしくこの間、桜の花が咲いたと飲んでいたのに、初雪が降ったというニュースです。今年是不順な天候の一年でした。5月の終わりから台風が上陸したり、夏は毎日35度以上の猛暑だったり、台風が10回以上上陸したり、最後は上越大地震です。

災害に遭われた方には辛い1年だったと思います。寒い吹雪の後には花の咲く日も来ることを信じて、念仏ともども生きて行きましょう。



## 12月の法座予定

12月14日昼席午後1時より……報恩講法座  
12月14日夜席午後7時半より……出張法座 出口宮原集会所  
12月15日朝席午前10時より……報恩講法座 おとき  
12月15日昼席午後1時より……報恩講法座  
12月28日午後4時より……門信徒会本部役員会 忘年会  
12月31日午後11時より……除夜会法要

## ☆ 菊花展・絵画展



11月8日から15日まで菊花展・絵画展を開催しました。今年は毎年菊花展に協力していただいた井原の濱野さんが亡くなられ、無事に菊花展が開催できるか心配していましたが、皆さんの協力で見事な菊を展示していただきました。今年は天候が厳しくて、難しかったようですが、色とりどりの菊の花を展示してもらい、近くを散歩される方がわざわざ、境内まで足を運んで、観賞されていました。

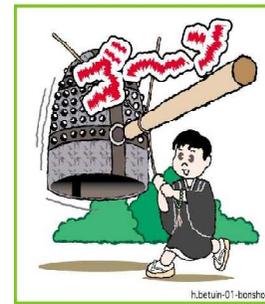
また今年は、去年 焚焼会で開催できなかった、絵画展もあわせて催しました。素晴らしい絵画や絵手紙を展示していただき、お参りに来られた方々がとても喜んでおられました。今年亡くなられた高田さんの遺作もあり、ご遺族の方にも悦んでいただきました。



## ☆除夜会法要(除夜の鐘撞き)

今年も例年のごとく除夜会法要(除夜の鐘撞き)をいたします。夜の11時より本堂でお正信偈のお勤めの後、鐘の前で讚仏偈のお勤めをして、

11時30分ぐらいから鐘を撞きはじめます。今年嬉しいことがあった人は感謝のところで、悲しいことがあったり、悔しいことがあった人は、忘れるためにこころを込めて撞いてください。去年もその前の年も、参加者が250名ぐらいでした。今年は300人を越えたらいいなと思っています。温かい大根や、甘酒もあります。またくじ引きもありますので楽しみにお参り下さい。



## ☆土曜学校(こども会)

12月から土曜学校を開始します。この頃【いのちをかんがえる】ことが大切に言われてきました。中学生が殺人をしたり、こどもが家族全員を殺したり…。今こそ仏様の教えが必要なおきではないでしょうか。こどもたちと一緒に仏様の前で過ごす時間を持ちたいと思います。積極的に参加してください。迦陵頻伽の舞いも練習する予定です。

☆! メールアドレスが変わりました。

<http://tetunari@msl.megaegg.ne.jp>です。光ファイバーに変えました。



## 「今一人思うこと」

山根紀美江

「お父さん、いい人生でもなかったねえ」

「ええよ。今が幸せだけえ」

「もう少し生きていたかったよ。」

最後の会話に未練と無念を残しつつ、私と息子に見守られ、八月二十日自宅にて五十

三年の人生に帰らぬ人となりました。辛いとも苦しいとも言わず、二人で闘った告知より一年六ヶ月。長い長い毎日でした。よく頑張ったとほめてやってください。あれから夢を一度も見ないけど、未練なく天上の人となったのですか。寂しくないですか。(結構楽しくやっているよ)。何か言い忘れたことはないですか。忘れ物はないですか。私、聞き忘れたこと、言い忘れたこと、いっぱいあります。一度でいいから夢で会いたいね、お父さん。帰らぬ旅立ちには会社の制服を着せてあげました。定年まで仕事をしてくださいね。その後は「お母さん、早く来いよ」なんて呼ばないでね。もう少しゆっくりして孫の顔でも見てから、そのうち報告に行きましょう。又、小言でも聞かせながら一緒に暮らしますかねえ。

寄らば大樹の陰でした。28年間、苦勞をかけました。有難う。お父さん。合掌

山根秀春 釋教秀 8月20日往生 54歳

## 「菊づくり」

濱野 須磨子

- ★ 菊作り 飛び来るハチに あなたかも・・見てくれるのね・・・と 涙して呼ぶ
- ★ 千輪も 佛がまもり それなりに 今冊の手に 抱えられにし
- ★ 菊づくり 命わずかの 病床で お寺の展示 想い指示する
- ★ 暮れゆきて あなたが側に 居てくれるから 頑張るその手に 疲れ忘れし
- ★ 観てますか 自慢の菊を 今終えて 映えたる花は あの日の続き
- ★ 今にして 懸崖菊の 接かたも らしさを無くし 姿表わす

- ☆ 痛みにも 耐えて夢見た 文化祭
- ☆ 輪台を かけつつ涙 頬伝い
- ☆ ライトつけ 菊花の間々に 姿見ゆ
- ☆ “ようやった”声聞きたい わたしです
- ☆ 二人分 頑張るからと 涙声
- ☆ 晴れ舞台 菊花の香り 集い楽し

濱野 博寿 釋孝静 8月10日往生 72歳



## 他を生きし続ける無量寿の「いのち」

カレンダー12月号 東井 義雄

他を生きし続ける無量寿の「いのち」

「無量寿」とは、はかり知れない(無量)「いのち」(寿)という意味です。この無量の「いのち」をお持ちの仏さまが、阿弥陀如来です。東井先生は、ある小学生の質問にこたえるため、夜半すぎまで調べものをされます。そのとき、ふと次のように気付かれたのでした。

「目」があつて見ることができることも、「耳」があつて聞くことができることも、「呼吸」や「心臓」が昼夜無休ではたらき続けていることも、「手」や「足」が、それぞれ自由にはたらいてくれることも、食べたものが「血」となり「肉」になり「骨」になり、はたらきの「エネルギー」

になってはたらいてくれることも、みんなみんな、ただごとでない、不思議きわまることであつたのです。「生かされている」とばかり思っていた私が「生かされている」のです。頭の上がらぬ思いでした。

いつも、バカにしながら読んでいた『正信偈』の「凡聖逆謗斉廻入 如衆水入海一味」(凡・聖・逆・謗、斉しく廻入すること、衆水の海に入って、一味なるが如し) という言葉が思い出されてきました。「凡(ほんとうのことは、何もわかっていない愚か者の私のこと)」、「聖(唯物論のほんのひとかけらをかじって、無神論をふりまわしたりしていた思いあがった私のこと)」、「逆(生かされているながら、生かしてくれているものに尻を向けていた私のこと)」、「誘(生かしてくれているものに那くばかりか、あえて犯していた私のこと)」う川の水も」それを諫言する罪をが、わけへだてなく、「那しく」、ちょうど、どんな荒れ狂汚れた川の水も、那めとっていく海のように、必ず摂取される世界があつたのです。そして、その世界のどまん中に、私は生かされていたのです。逆いているときも、誘っているときも「み手のまんなか」であつたのです。

「仏さま」は、「私」の「いのちの根源」に、はたらきつづけていてくださっていたのです。

